

領域4 インフォーマルミーティング議事メモ

報告者 江藤幹雄（領域代表）

2009年3月28日（土）12:30～13:30 TX会場

代表 江藤 幹雄（慶大理工）

副代表 平山 祥郎（東北大理）

世話人 川村 稔（理研低温）、福田 昭（兵庫医大物理）、村山 明宏（北大院情報科学）（～2009.4）

鵜沼 毅也（名大院工）、鈴木 恭一（NTT 物性基礎研）、山本 倫久（東大院工）（～2009.10）

【報告事項】

1. プログラム小委員会・領域委員会（2008.11.25）

(1) 第64回年次大会の招待・企画講演、シンポジウム講演の検討と決定

領域4関連は以下の通り。

招待講演、企画講演：提案なし

シンポジウム：3件採択

・領域4、5合同：「光で探る半導体スピンドYNAMICS」

2名の講演者（大野先生、小坂先生）が同じ所属（東北大通研）であったが、お二人は異なる研究室に属していること、小坂先生の仕事は主にCREST-JSTで行われたものであること、という理由から、所属重複規制の例外として認められた。

・領域9・3・4：「超低速ミュオンが拓く表面・界面・薄膜の先端ナノサイエンス」

・領域10・4・8：「高濃度ドーピングへの挑戦とそれに伴う格子欠陥の解決」

第3回若手奨励賞：受賞記念講演2件、選考結果説明1件

(2) 若手奨励賞の受賞数の見直しについて

各領域の受賞者数の上限を見直した（3回ごとに見直す規定）。全19の各領域に

$1 + (\text{過去3回の年次大会の講演数のその領域が占める割合}) \times 3$

を割り当て、合計49名。領域4の受賞者数の上限は、過去3回と同じ2名。

(3) Jr.セッション

中学、高校の部活動の研究発表。今回が5回目。

(4) 前回の領域4のインフォーマルミーティングで「領域の見直しを定期的に検討すべき」との意見が出された。その議題を物性領域プログラム小委員会に提案したが、今回は議論する時間がなく、次回に持ち越された。

2. プログラム編成会議（2008.12.12）

(1) プログラム編成会議には、東京近郊の川村、鈴木、山本の3名が出席し、プログラム編成、インフォーマルミーティングの申し込み等の作業を行った。事前のカバーシート作成には上記3名に鵜沼、福田、村山が加わった全世話人で分担した。

(2) 領域4・7合同のグラフェンセッション：各領域で1つずつグラフェンのセッション（プログラム上は「領域4、7合同セッション」）を作り、グラフェン関連の発表はそれぞれ申し込みをした領域の合同セッションにて発表してもらうことにした。

3. 第3回日本物理学会若手奨励賞（領域4）

審査委員会

- 委員長： 現領域4代表 江藤幹雄（慶大理工）
- 委員： 前領域4代表 樽茶清悟（東大院工）
- 委員： 大塚洋一（筑波大物理 & 学際物質科学研究センター）
- 委員： 大野英男（東北大通研）
- 委員： 永長直人（東大院物工）

領域4のメーリングリストを利用して、2008年6月9日～2008年7月22日の期間自薦・他薦の応募を呼びかけたところ、3件の応募があった。応募書類を元に上記の審査委員会にて審議をし、次の2名を物理学会に推薦し、理事会で決定された。

小林 研介氏（京大化研）、野村 健太郎氏（東北大理）

4. 領域4メーリングリスト（jps-semicon@appi.keio.ac.jp）への参加呼びかけ（継続的）

学会に関する各種情報や意見の交換が行われるので、学生も含め是非登録をお願いします。メーリングリストとその登録に関しては、領域4のWeb（<http://div.jps.or.jp/r4/index.html>）をご覧ください。

【審議事項】

1. 次期領域代表・副代表（任期：2009.10～2010.9）の確認、承認

- 代表： 平山 祥郎（東北大理）
- 副代表： 山田 省二（北陸先端大）

2. 次半期の世話人確認

鵜沼 毅也（名大院工）、鈴木 恭一（NTT物性基礎研）、山本 倫久（東大院工）（～2009.10）
枘富龍一（東大理）、村上修一（東工大理）、三野弘文（千葉大理）（～2010.4）

3. 次々期世話人（任期：2009.11～2010.10）の紹介・承認

野村 健太郎（東北大理）、大橋 琢磨（阪大理）、羽田野 剛司（ICORP-JST）

4. 世話人の仕事分担の確認

・プログラム編成

業務分担を世話人の中で調整（編成会議への出席は東京近郊の3名程度）

・領域HPのメンテナンス（1名）

担当者：鵜沼（2008.11～2009.10の1年間）

・シンポジウム、招待講演、企画講演の計画（全員）

1年近くじっくり考え、任期最後の学会で何かを企画することが大変望ましい。

5. 領域4・7合同のグラフェンセッションについて

- ・過去3回の物理学会：募集要項には合同セッションの記載なし、プログラム編集の段階で領域7と協議の上「合同セッション」を設けた（お互いに関連する発表があることを知ってもらい、日程が重ならないよう配慮できる）。
- ・次回の物理学会：募集要項に『グラフェン関連の講演については領域7との間で関連性が強いと思われる講演を組み合わせ合同セッションを組むことがあります』と明記し、第3キーワードに『(36)グラフェン』を追加。（第1キーワードから『量子ホール効果』や『量子ドット』をまず選択してもらい、その1つとしてグラフェン研究を位置づける。必要に応じて合同セッションについての意見を要旨欄に書いてもらうようメールでアナウンスする予定。）
- ・合同セッションを今後も継続するか。
賛否両方の意見あり：合同セッションよりは量子ホール効果や量子ドットのセッションで議論してもらいたい、聴衆としてはグラフェン関連の講演がまとまってあると便利。

【参考】過去3回の物理学会におけるグラフェン合同セッション講演件数の推移

2009年3月（立教大）：13件

理論 7件（量子ホール効果6、半導体スピン物性1）

実験 6件（グラフェン2、領域内横断テーマ2、量子ホール効果1、量子ドット1）

* 合同セッション希望 4件（すべて実験）

2008年9月（岩手大）：11件

理論 10件（量子ホール効果9、量子細線1）

実験 1件（量子ドット1）

* 合同セッション希望 1件（理論）

2008年3月（近畿大）：11件

理論 10件

実験 1件